連載
いのちのひろば
103
毎月１回、中旬の水曜日に掲載

今月のひとこと
抗コロナ薬の適応が拡大されました。治療薬、予防薬として使用することにより、社会復帰が早くなることが、期待できます。まだ、高価な薬ですが、ご自身の基礎疾患、ご家族の健康状態等を考慮し、抗コロナ薬の使用をご検討ください。

抗コロナ薬の適応拡大による対応の変化

浜町小児科医院　院長
遠藤　徳之



えんどう・のりゆき　１９６９年小田原市に生まれ。静岡聖光学院高等部卒、杏林大学医学部卒、順天堂大学小児科入局。山梨県立中央病院、日野市立総合病院、多摩南部地域病院を経て平成16年医療法人社団浜町小児科医院。平成23年度より小田原医師会理事に就任。資格は、小児科専門医、インフェクションコントロールドクター認定医、日本医師会認定健康スポーツ医。

抗コロナ薬には、種類がある。それぞれに特徴や適応が異なる。いまだに高額の為、使用を控える方も多い。今回簡単ではあるが、効能や今回の適応拡大について説明します。治療を選択する上の一助になれば、幸いです。

◆抗コロナ薬とは
抗インフルエンザ薬と同じで、ウイルスの増殖を抑える効果があります。その為、ウイルス増殖のピーク前に、使用すると大きな効果が得られます。このタイミングに使用することで、ウイルスの最大量を下げます。最大量が低ければ、早くウイルスは消失します。（図１）

よって、重症化予防と後遺症予防が出来ます。また、周囲へまき散らすウイルス量を減らすことから、周囲への感染も減らします（家族内感染予防）。

◆抗コロナ薬と抗インフルエンザ薬の比較
抗インフルエンザ薬は、ほぼ全年齢が対象です。抗コロナ薬は、６歳未満にまだ使えません。抗インフルエンザ薬に比べ、抗コロナ薬は、とても高価です。その為、使用をしない方が多くいます。抗コロナ薬が抗インフルエンザ薬と同等の使用状況になれば、感染拡大を抑制し、重症化・後遺症を予防がかなり可能になるでしょう。こういった効果のおかげで、より早い社会復帰が可能になるでしょう。

◆抗コロナ薬の種類と比較
抗コロナ薬は、ラゲブリオ、パキロビッドパック、ゾコーバの３種類があります。それぞれの対象や効果等について表１にまとめました。まずは、発症から投与開始までの期間が３日以内か５日以内かで薬の選択肢が異なります。重症化と後遺症予防効果はどれにもあります。発症予防は、ゾコーバのみです。妊婦に使えるのは、パキロビッドパックです。併用出来ない薬が少ないのが、ラゲブリオです。高齢者になるほど、基礎疾患が多く、定期的な内服薬が多くなります。内服薬が多いと併用出来ない薬が含まれる可能性が増します。よって、高齢者にラゲブリオを選択することが増えます。

◆抗抗コロナ薬の適応の拡大について
今回、６歳以上かつ体重20㎏以上から抗コロナ薬が使用可能になりました。あくまでも発症した際の治療の為の使用です。予防投与可能なのは、12歳以上かつ体重40㎏以上からです。

◆予防投与について
予防投与は保険診療でない為、自己負担となります。抗インフルエンザ薬は安価なので、既に希望する方がそれなりの数いらっしゃいます。抗コロナ薬は高価な為、あまり希望される方が、いらっしゃらないと思います。しかし、受験生や基礎疾患がある方、高齢者が家族内にいる場合等は、希望される方がいるかもしれません。

予防投与は、日頃から健康を管理してもらっているかかりつけ医でないと、処方は難しいと思います。初めて診察して、基礎疾患の有無や肝臓や腎臓機能の数値が問題無いのかなど、夜間診療所のようなところでは、確認が困難な為、処方出来ません。予防投与は、かかりつけ医へご相談ください。

◆今後について
コロナは、致死率は低下したが、咳や自律神経症状（なんとなく本調子でない、怠い）が長期化する後遺症等があり、社会復帰に時間を有するケースもあります。抗コロナ薬を使用することで、重症化や後遺症を予防出来ます。薬価が安価になれば、使用頻度は増すでしょう。最近になって、コロナ罹患によって、会社の生産性が落ちることから、抗コロナ薬を使用する場合に一部負担をする企業が、やっと出始めた。広がっていく様子は、現在のところ無い。

早く抗コロナ薬が、全年齢で使用出来るようになること。安価で、使用しやすい薬になること。後数年後には、こんな時代になっていることを期待している。

次回は11月中旬に「脱毛について」を掲載（予定）です。

図１　発症からのコロナウイルス量の経時的変化のイメージ図

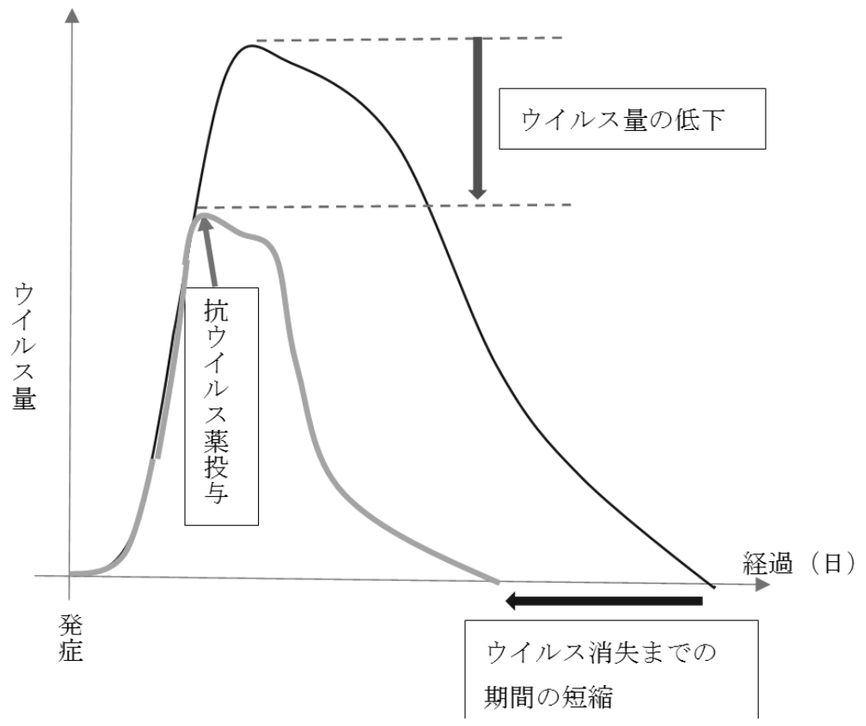


表２　抗コロナ薬の比較

	ラゲブリオ	パキロビッドパック	ゾコーバ
投与までの期間	**発熱から５日以内**	**発熱から５日以内**	**発熱から72時間以内**
治療の対象	**18歳以上**	**６歳以上かつ20kg以上**	
重症化予防	効果あり	効果あり	効果あり
後遺症予防	効果あり	効果あり	効果あり
発症予防	不明	不明	**効果あり**
予防投与の対象	無し	無し	**12歳以上かつ40kg以上**
妊婦の適応	適応無し	**適応あり**	適応なし
併用出来ない薬	**少ない**	多い	多い

表１　抗コロナ薬と抗インフルエンザ薬の比較

	抗コロナ薬	抗インフルエンザ薬
発熱から投与開始までの期間	72時間以内と５日以内	48時間以内
薬剤の価格	高価	安価
重症化予防	効果あり	効果あり
後遺症予防	効果あり	効果あり
発症予防	一部効果あり	効果あり

小田原医師会より住民の方々へ

小田原市休日夜間急患診療所の体制について

小田原市休日夜間急患診療所
休日や夜間に急に発症した方の診療を目的とした一次救急の医療機関です。軽症の患者様を対象としていますので、症状によっては、重症患者様を受け持つ「二次救急病院」へ受診していただくことになります。応急処置を目的としていますので、受診後はかかりつけ医を受診するなど適切な医療を受けてください。

〒２５６－０８１６ 神奈川県小田原市酒匂２－３２－１６
☎０４６５－４７－０８２３　駐車場（第１～４）あり
https://www.odawara.kanagawa.med.or.jp/nighttime/

診療科と受付時間　※ 12月29日～1月3日の6日間は休日の診療をします。

	平日（夜間） 午後７時～同10時	日曜・祝日（昼間） 午前８時半～同11時半 午後１時～同３時半	土曜・日曜・祝日（夜間） 午後６時～同10時
内　科	○	○	○
小児科	○	○	○
耳鼻咽喉科		○	
眼　科		当番日のみ	
歯　科		日曜・祝日（昼間） 午前９時～同11時半 午後１時～同３時半	

小田原市・箱根町・真鶴町・湯河原町の方対象

10月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2 14:20～15:20 小児科	3
4	5 13:00～14:00 内科 循環器科	6 13:00～14:00 整形外科	7	8	9	10 13:30～14:30 内科 神経内科
11	12	13 13:00～14:00 内科	14	15	16	17
18	19	20 13:30～14:30 内科	21 13:30～14:30 内科	22	23 13:15～14:15 皮膚科	24 14:30～15:30 産婦人科
25	26	27 13:30～14:30 耳鼻科	28 14:30～15:30 内科 腎臓内科	29 13:30～14:30 内科	30	31

11月

日	月	火	水	木	金	土
1	2 13:00～14:00 内科 循環器科	3	4	5	6 14:20～15:20 小児科	7 13:30～14:30 内科 神経内科
8	9 13:30～14:30 内科	10 13:00～14:00 内科	11 13:30～14:30 内科	12 13:30～14:30 内科	13	14 14:30～15:30 産婦人科
15	16 13:30～14:30 耳鼻科	17 13:00～14:00 内科	18 14:30～15:30 小児科	19	20	21
22	23	24 13:30～14:30 内科	25 13:30～14:30 内科	26	27 13:15～14:15 皮膚科	28
29	30					

小田原医師会地域医療連携室では、医師による電話相談を行っています。無料です。事前にお電話ください。

〈上記の問合せ先〉
小田原医師会地域医療連携室
☎0465-47-0833
月曜～土曜（日曜、祝・休日、12/29～1/3休み）
午前９時～正午／午後１時～午後５時

医療機関検索は
小田原医師会のサイト
から利用できます
https://www.odawara.kanagawa.med.or.jp/